

觀自在

弘長寺寺報
第二十四号
平成二十四年新春(年
二回発行)

弘長寺本堂耐震大改修

本年五月に完成です

弘長寺住職 森田裕光

あけましておめでとうございます。

平成二十四年の幕が開きました。

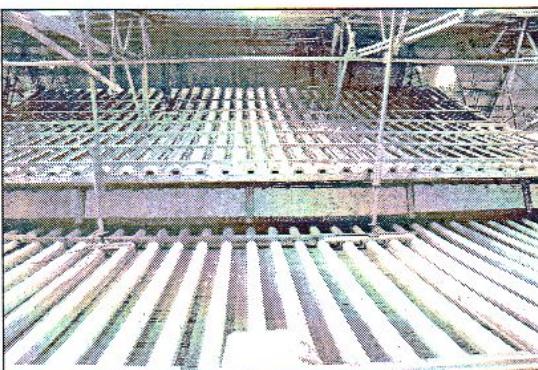
工事は着々と順調に進捗しております。昨年は災いの年でありましたが、本年は平穏な年になりますように祈りたいと思います。

十二月にお手紙で、工事の進捗状況を写真付きでお知らせいたしましたように、九月五日の起工式以来、本堂

工事は着々と順調に進捗しております。昨年は災いの年でありましたが、本年は平穏な年になりますように祈りたいと思います。

御本尊様は一月十九日に、護持会長さんと共にお見送り申し上げ、無事修理にお出かけになりました。

きっと立派に修復されてお



素屋根の下、金色の銅板です

一月末現在、後ろ屋根と前側上屋根の銅板工事がほぼ完成に近づいています。銅板が金色（こんじき）に光り、感動です。雪の時期が終わる三月頃には仮屋根（素屋根）が外されます。外されてから二ヶ月間はこの金色屋根が後光がさしているように見えるそうですので、是非一度は足を運んで拝んでいただければと思います。

東日本大地震からおよそ一年が経ち、各地で地震が頻発し、首都圏では四年以内に大地震がくる可能性が七〇%だそうです。富士山を仰ぐ山梨の富士五湖でも二十八日、震度五・五の地震が起きましたし、東南海大地震やその大津波も確率が高くなっています。

この島根も他県に比すれば低いといわれますが、それはやはりません、数年前に宍道町では震度五強の地震（境港・日野町でも六強）があつたばかりですし、絶対安心地帯と思われていた神戸の地震はまさに想定外の大衝撃でしたから、地震大国日本には絶対安心地帯などありません。

倒壊能登地震で多くの瓦屋根本堂の倒壊を知り、とにかく屋根を軽くしたい思いで取りかかつたその日が必至対難や策く屋根が今、頼もしく、また有り得ないと思つていいです。『耐震りがお陰だつた』といふことがあります。

- ① カナメ銅板段付本瓦、カナメ和瓦、
カナメ文字は毎分42l/m² (240mm/h) の降水量に耐えます。
(短時間降水量白木記録は長与(安崎)の187mm/h. 1982.7.23 19:00~20:00)

- ② カナメの屋根は風速83.9m/secで吹き抜ける風圧に耐えます。*
- ③ カナメの屋根は全て水密試験 (平均40kgf/m²以上) に合格しています。

※参考資料【風速】

■猛烈な台風	風速54m/sec以上
■非常に強い台風	風速44m~53m/sec
■強い台風	風速33m~43m/sec

台風とは国際的な取り決めにより、熱帯低気圧の中で風速が35kt (約17m/sec) 以上のものを台風と呼びます。昭和34年の伊勢湾台風では超大型台風に成長し、最大風速は75m/secといわれています。

業者・カナメの銅板：ここが違います

帰ります。

菩提寺本堂

落慶の年

弘長寺護持会
会長 武田民三

あけまして
おめでとうございます。

今年の正月は特別な『慶び
に満ちあふれる想い』で新年
を迎えることができました。

私どもが等しく心に描き、
待望していました菩提寺の本
堂がいよいよ完成する年であ
り、秋には本堂落慶法要と併
せて開闢七百五十回大遠忌、
さらには裕光方丈さまの結制
並びに大裕さまの首座法戦式
等々の慶祝行事が重なる誠に得
難い巡り合わせの年であります。

とりわけ大裕さまは、今春
曹洞宗の大学・駒沢大学仏教
学部を目出度く卒業され、三月
には大本山永平寺様にご修
行・上山されます。よくよく考
えれば、それは弘長禅寺開闢以
来、最初の世襲繼承者におなりにな
ることでございます。十五世さまま
ず、その後も裕光方丈さまま



弘長寺ご本尊・聖観世音菩薩様

そして又、私は有り難くも
当山のご本尊さまが修復のため
お出ましになるお姿を拝ませて頂くご縁を得ました。
佛具屋さんの言葉では、鎌倉時代の作とのことでありま
す。皆さまもご高承のように當
山のご本尊さまは聖観世音菩
薩さまですね。この世界は觀世音菩薩さま
の妙智力が示現された世界で

ます。この度大裕さまが初めてお寺のラゴ（子供）として世襲が可能となります。近隣の他寺院では、住職の跡継ぎが難航している寺院もありだと伺っていますが、当山に限つては将来が安泰で、後継者の心配がないということです。これは檀家にとつてこの上ない幸せであり、共に慶びたいと存じます。

あつて、觀世音菩薩さまは一人の菩薩の固有名詞ではないのです。觀世音とは世の中の一切衆生の心の「ひびき」を観じ給い、それを得度せんがために衆生の心相応の姿を現し給う大慈悲であつて、三十三身に大慈悲であります。身を変じて私達をお救いくださると教えられています。

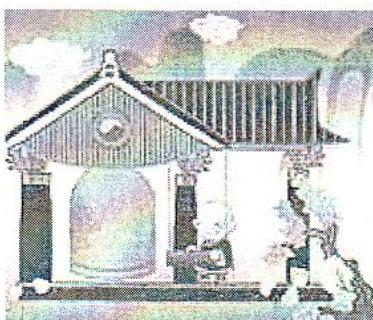
山々のたたずまい、雲の行きかい、風のひびき、水の流れ、それらすべてが觀世音菩薩さまの慈悲の説法であると。言い換えれば、觀世音菩薩さま（觀自在菩薩さまとも）は尽十方無礙光如來（阿彌陀さま）の大慈悲の顯現であると言われています。

私達はこのようないよい難い山々のたたずまい、雲の行きかい、風のひびき、水の流れ、それらすべてが觀世音菩薩さまの慈悲の説法であると。言い換えれば、觀世音菩薩さま（觀自在菩薩さまとも）は尽十方無礙光如來（阿彌陀さま）の大慈悲の顯現であると言われています。

私達の菩提寺には、阿彌陀堂（各家・先祖さまの位牌堂）があり、阿彌陀さまが安置されています。阿彌陀さまの「弥陀」は「ミチ足りる」であり遍満の意味であると教示されている。「阿」は真言密教では「阿字不生」と言わされていて、般若心經にある本来「不生不滅」のことを意味し、虚空の到るところに遍満している永遠の生命であつて無量寿佛、もしもくは無量光佛とも言われる。即ち無量寿如來、或いは不可思議光と言われています。阿

皆さまと共に、いよいよ菩提寺の護持に邁進いたしました。ものと思う次第であります。

ありがとうございます。



合掌

よい年でありますように

護持会副会長 坂本研次

平成二十三年は皆さまにとつては、それぞれの想いのある年でした。今年はよい年でありますようにとの願いをこめて皆さん

が新しい年をお迎えのことと存じます。

今年で弘長寺は、開闢以来七百五十年の星霜を数えるに至りました。その長い歴史の中では、戦争や自然の災難などが繰り返し襲つて来ました。祖先への報恩と現世の安泰、そして子孫の長久を冀つて法灯を消すことなく今日に至りました。まことに有難いことです。

本当の幸せとは？

護持会副会長 内田松寿



合掌

これからもどうかよろしくお願いします。皆様にとって良い年でありますように。

昨年は東日本大震災がありましたが、復興にむけ、全国が少しでも元気を取り戻すべきと言われています。私たち弘長寺の小さな元気でも元気です。

今年の秋には落慶法要、開關七百五十回大遠忌と住職様の大裕様の首座法戰式という大きな慶祝行事の予定です。

「諸行無常」や「愛別離苦」など生活上の苦しみなど震災とや生の復興の様子をTV等で見ると、いつたものを、生きることでいるにつけ、しみじみと感じている。

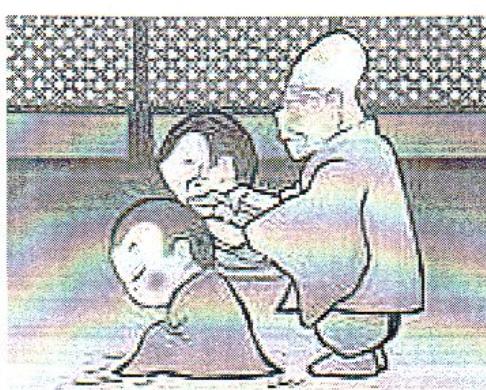
平凡な毎日がどんなに「幸せ」なことか。朝起きて、顔を洗い、食事をとり、身支度をして出かけ、働き・学習し、話し、喜び、悩み、繰り返される毎日。当たり前のことと思つていたことが、本当は尊くてかけがえのない一日だと強く感じるようになつた。

大震災は日本人に忘れかけ出ていた「絆」の大切さを思い出させてくれた。数など四十の社会統計指標からなる「幸せ度」の順位を公表した。

①福井、②富山、③石川、④鳥取、島根県は⑧、以下。兵庫、高知、大阪だつた。また、東北大が調査した、心身の健康・経済状況・社会参加・個人生活・安心安全の五分野からなる「高齢者福祉指数」の総合点では本県が第一位だつた。

「幸せ」とは何か？発想を変えることで日本一幸せな地域にもなりえる。本年が平穏で、将来に希望を持てる年となることを願っています。

昨秋、ブータンから来日したワンチユク国王夫妻を人々は大歓迎をした。その清新な人柄の魅力もあつたが、物質的な充足よりも心の豊かさを求めてGNH（国民総幸福度）を掲げるブータンの国は、ひとつ未来を見いだしたからだろう。実際に、国民の九十七%が「幸せ」と回答している。



去年は暗いニュースが多く、心が痛む一年だった。

この度の本堂の耐震改築工事にあたりましては護持会の皆様には格別のご協力を賜り感謝申し上げます。

お陰様にて今のところ激しい工事が順調に進んでいます。やがて黄金色の屋根が出来上がつてまいります。どうか拝んで下さい。

お知らせ

お願い

●阿弥陀堂に四天王を
ご喜捨いただけきました

武田家先祖代々精靈
妙見院秀嚴極王大姑



東持國尊天

四天王は、仏法や仏法に帰依する民衆を強力に護る佛様です。六道の中の天上界においては、位牌堂の四隅に置かれるのが最も多く、別格で的是が法隆寺国宝や東大寺国宝、天王は特に有名です。



西應自尊天

四隅に当なさるよう初は併てに阿弥陀堂が安置され、天井の設置で天井を下げ式の簡単な箱井がきを準備するとのことでした。



南 增長尊天

※四天王は四方を守る守護神とされますが、阿弥陀堂入り口に貼り出しているものと、同じ内閣をした四天王についての解説文を読んでみると、四天王は明王の神格が出現してくる前の、初期の仏教で特に重視されたようですが、東大寺などでは、諸尊の立つ姿は立派です。四隅に寺堂々々と立つ姿は、法隆寺で特によくあります。



卷之六

この寺は大阪市の四天王寺です。日本で現存する最も古の天王を祭る寺として有名な、この寺は大坂市にあります。境内には、伽藍焼失に遭った後世の四天王像が安置されています。

六歳部氏と蘇我氏が争つた時、十六聖德太子も蘇我氏の一員

阿弥陀様を礼拝した後、
この四隅の四天王仏にも手
にけつけた。先祖代々の仏様方へ、
また私の功德がもたらされ、お陰
でござる。これだけは、私どもに
いたるところです。

いだいお檀家皆様に細納ごをしが工得喜失わ施ていなしいたず在てただ。急遽お願てござんす。お庄嚴い住職が大工さんへ現れました。

三門單で	西東
天天獨呼通	広持
はのでは常	目國
單名祀れ四	天天
独前らま天	北南
でがれすが、	多増
祀使るが、金	長天
らわ時に多	多聞
れれに限聞天	天
るますり天經	
と。、だくは他	
は昆け名沙は前	
あの沙は前	

としてその陣中になりました。
しかし相手は何と言つても皇室の軍事部門を一手に引き受け
てきた物部。蘇我は劣勢に立たされます。

この時、太子はいそぎ四天王の像を彫り、「私たちを勝たせてくれる。塔くわを建ててお祀りします」といひて寺に立ちました。その像を奉じて先陣に立った。蘇我勢はなんとか戦況を逆転させ、勝利を收めることができた。

この戦争の結果、物部氏は壊滅。彼らが支持していた穴穂部皇子も殺され、蘇我氏が推した泊瀬部皇子が即位、崇峻天皇となります。(実際に完成したのは六年後)これが現在の四天王寺です。

またこの寺の西門にある石の鳥居は日本最古の鳥居です。

以上

お手紙をさしあげたのですが、から
く委員の方には住職が
是非現在の委員様にはできれ
ばそのまま続投していただき
たいと思つています。

護持会地区委員の任期が
参りました

墓はそういう車でもお参り出来る。
お墓が高所にあり、急坂で
おられる方はどうぞ。お
墓地にお申し込み下さい。
条件の良い場所は少なくないつ
ります、お早めにどうぞ。
方法は四年の長期分
も受けておりま
す割り支払い方法は四年の長期分
の無利子で安心してご相談下さい。

入られた方は皆満足をして
いらっしゃいます。お墓の当りま
す。お参りや掃除が楽になります。

●墓地が十分空いています
第三墓地は着実に埋まつて
きてします。

毎年四月第二日曜日の大般若祈祷法要は、本堂大改修のため本年はお休みします。

お知らせ

お願い

区の隣保班長のようにコロコロ代わつていただきたくないのです。

め、それは仕方なしに任期を務めます。

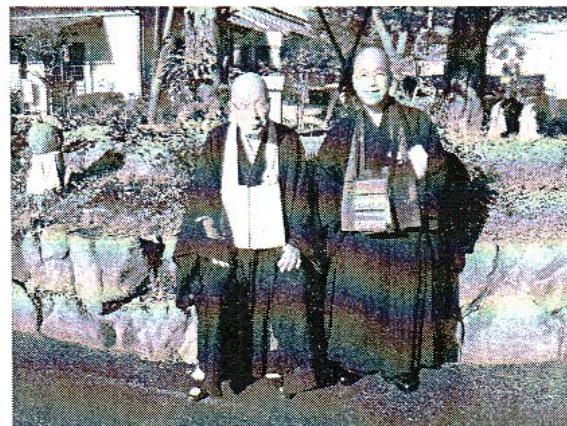
務めと先祖の傳承を守り、代々受け継ぎながら、お寺としての使命を果す。信頼と家業の継承が、このお寺の歴史を形作ってきました。

申業かといろいいろな考え方であります。今日はおはるい事です。

ちようどもう一期務めて
ただければ、五年の集金業務い
を全うすることができまし、
ちようどもう一期務めて
ただければ、五年の集金業務い
を全うすることができまし、

● 第二教区護持会・一泊研修会に参加しました。どうか各地区の檀家皆様も、理解します。ご協力を願いいたしま

第二教区護持会一泊研修会に
当山より四名参加しました。



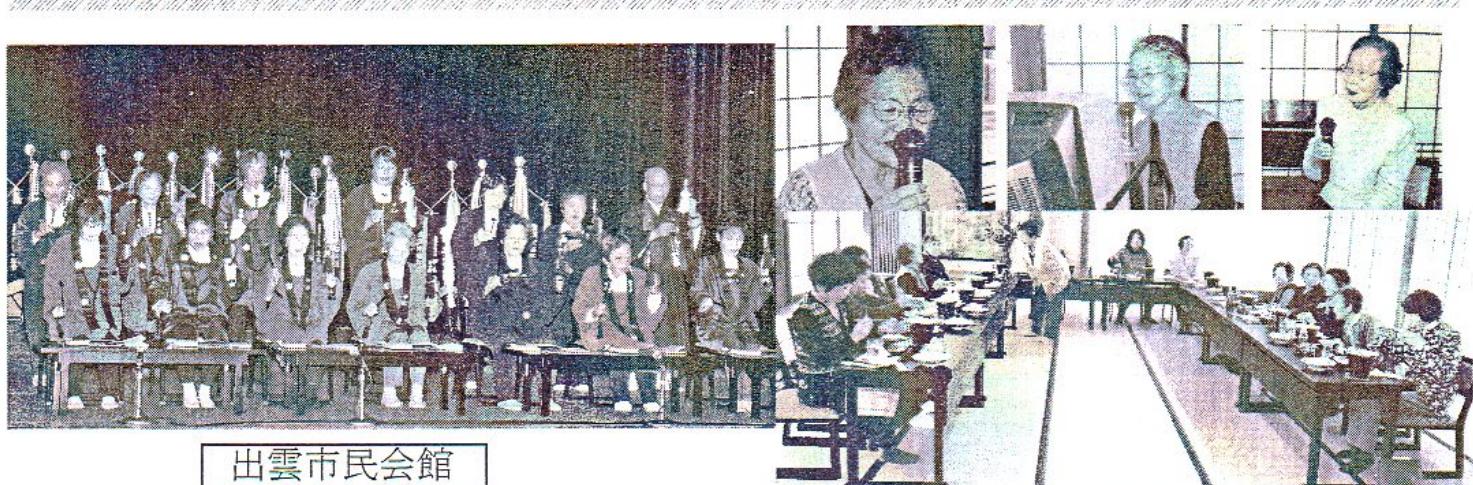
しがもな夕飯もお済みだつたのを確認して安堵、入浴が自分で勝手に勘違いされて、た一つ前の事。列車でお着きになつた肝を冷やしました。

そのお話を「県民会館で司会をした教化主事です」とその様子を申し上げたら、「オレ、そんなこともあつたのう。」と思ひ出してくださいました。そして、お願いしたら「よつてしょ」とツーショットに応じて、お願いできました。「よつてしょはそつういないのではないで、この写真は私の宝物です。

●御詠歌講に入られませんか

昨年新年会と、県奉詠大会の写真です。からどうぞご参加下さい、お待ちしています。

御詠歌講は、旅行しながら全国の大會にも参加できました、玉造温泉一泊修業あります



出雲市民会館

●菩提寺の除夜の鐘をつきましよう

今年の参加者です



おいしい甘酒をどうぞ
暖まりますね

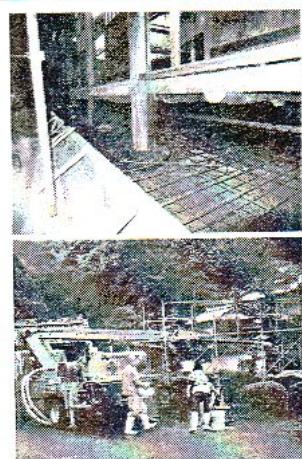
絶対いいことありますよ

石のいのち
木のいのち
土のいのち
石屋は石のいのちを知り
大工は木のいのちを知り
陶工は土のいのちを知る
感應することであり
触ることである
その魂に
優れた人は
黙して語らないが
彼等の内奥に入り
その声を聞き
個性を活かす
だから出来上がった
ものがいのちに溢れ
奇跡を生むのである

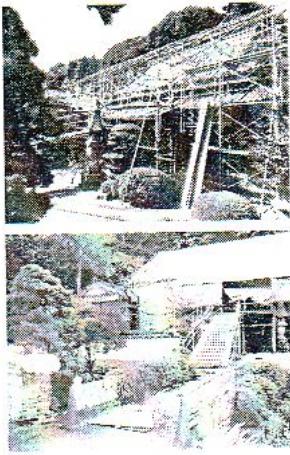
いのち

●素屋根の中の工事を
ご紹介します

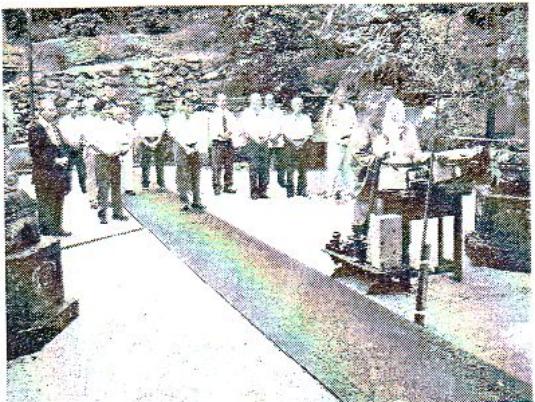
お知らせ



基礎耐圧コンクリート運搬注入

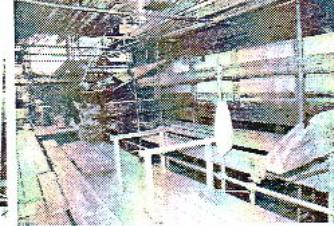
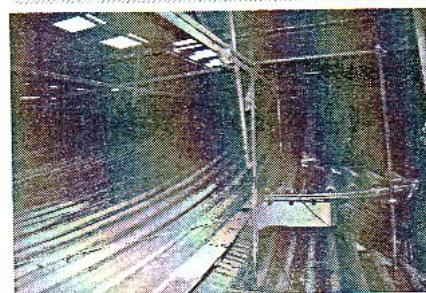
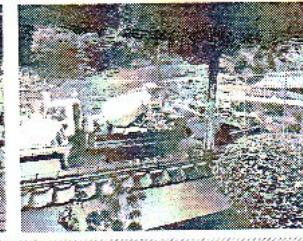
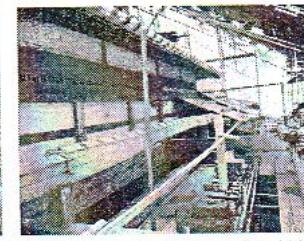
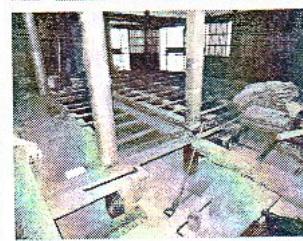
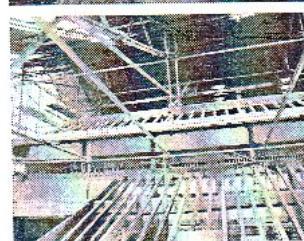
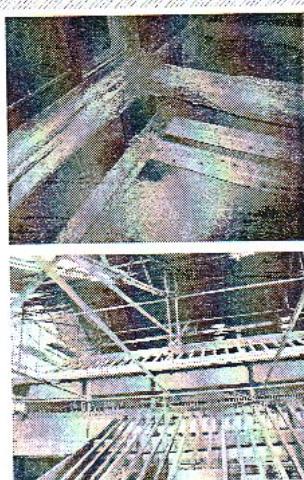


足場・素屋根作り



起工式

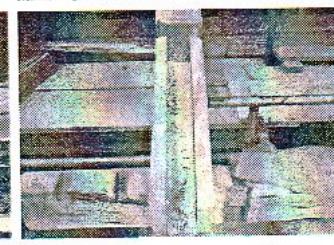
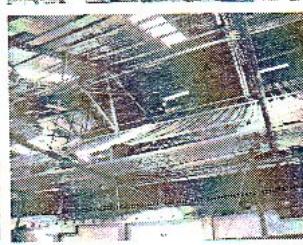
悪い箇所は徹底的に取り替える。
充分使用に耐える物はもつたいない
ので使う：大改修のコンセプト。
銅板屋根は三百年は大丈夫とのこと



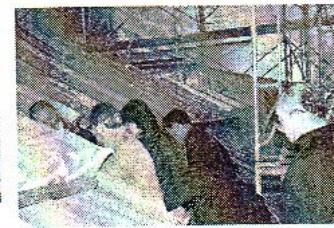
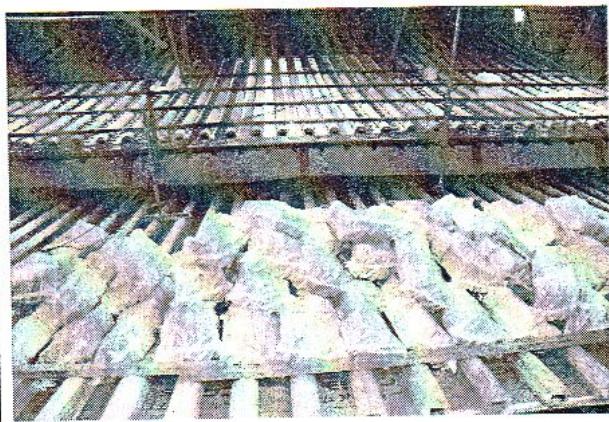
徐々に屋根の形が出来上がってい
きます

カナメの銅は純度 99.9%

厚さ 4 mmで酸性雨の被害皆無



上屋根の谷の銅板貼りが終わり、
今度は山部分が貼られます。
そして表紙写真の如くになりまし
た。



住職は考える

「自灯明・法灯明」と「対機説法」との隙間(すきま)をさぐつてみる

住職

お釈迦様は三十五歳でお亡くなりになるまで徹尾「説法の旅」でいらつしやいました。その説法がお經として残つてあります。その説法の仕方は「対機説法」で説法をされたとのこと。ここに力点をおつけでは、誤解を招きかねないがのけつではないかと私は最近気がついたのです。

・そもそもおが寄た法のでは亡り時お灯答し何く添、釈明えよをな尊つ一師がう頼り師て番長の入滅なかりにいのこになおたくお滅す。質れた迦者釈が自問ばら様の迦近灯しよ私阿様づ明たいどが難にい



事実、お經(法)は、アートマ(自)不滅が説いています。洲はないく本・法現は島明せり所とせよ、法を拠り所をさあ(自)なりと拠れる灯

譬えられるように、何でもあります。いうことになるのでもあります。

でののた修結そ記行集の後力口開催年により正に確則出計正に伝秀者回

た結え迦かて後集を葉らへす学者と確に教五百弟子先生の中には、呼認よ団百羅漢(五百人)は、作釈繼業迦いお釈迦様だ摩迦まされ一教訶様つ滅

うれにでま残大切はな口傳習によ伝えであつたよ字

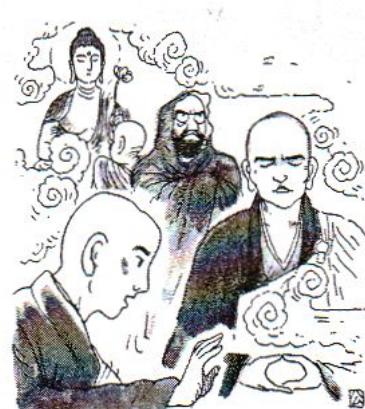
き年教た様筆つてはまりお經はお釈迦様の間にの言葉を直接文字で残してお釈迦直

減二百年は小乗經成立後五年を経たもので釈尊は乗經典成立後五年頃のことです。伝えの聞き書百仏し迦直

お釈迦様入滅後三百年、五百年後に成立しています。

けにして、百歩譲つて、真意、正しいやの大意抜きだときもする

うでて百く全がのと、を樂しむが、最後の人の答えが、正解



えられたのだと主張する方では戦国時代になります。から五百年前といいます。日本では、主張には説得力がなく、所詮無理があります。

うか。

その質問をある現職研修会で、原始仏教を研究されている大学の先生に質問したことがあります。

私は理解可能でした。が、一瞬仰天したのですが、像でない偉い学者先生からそれが出てくるとは想いませんでした。

なにせ三百年や五百年を一瞬でタイムスリップする、などちらかといえども、やンの肯定、「シヤーマン」がいたことは、大活躍のよう非科学的な、およそ学者先生のイメージとはかけ離れたお答えなんですね。

新興宗教学は、横道の中に逸れていますが、幸運の科



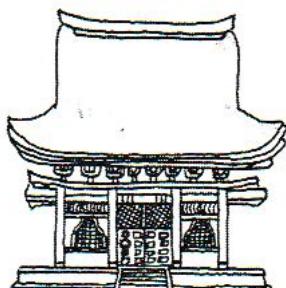
す問題雑易要道題とにだにし話け元様もかすを書の物生たいとくよが天涯なう可読といの能め教代ななばえ物い、ので、粗容概



つかない等々。
曹洞宗の道元様の靈言集
でも「こんにちは、道元で
いかじつただけのことしか書
いてない。」
門の学者でさえ「ウーン」と唸る程の語句が並んでい
るならまだしも、四・五ページをめくつただけでイヤにな
ります。つまりお粗末な内容
でなつてしまふ。
そもそも本人が、「こんに
には」などと挨拶をして、
現代の言葉で話す訳がない。

「自らを拠り所とせよ」という自らほど、実は不安定で頼りにならないものは安らぎはありません。だから法（真理）とペアにいる。

さて、本論に戻ります。



悟上はげていくのはいいの果て靈は界一です。深少つまで道といしてでも元哀教道い言最は

平成24年度 曹洞宗島根県第二宗務所檀信徒本山研修会

曹洞宗大本山永平寺参拝と

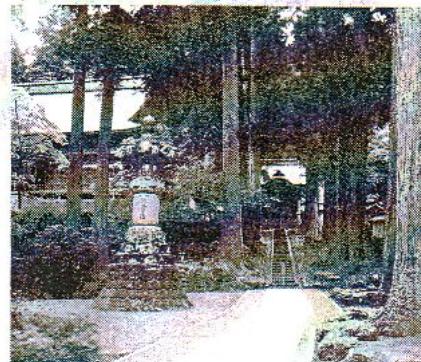
高岡山瑞龍寺、奥飛騨温泉郷の旅

皆様には、ご健勝にてお過ごしのことと拝察申し上げます。平成23年度は大本山總持寺ご移転100年慶賀恩会に合わせた檀信徒本山研修会に多数ご参加をいただきありがとうございました。

平成24年度の檀信徒本山研修会は大本山永平寺を会場に研修会を開催する事になりました。永平寺吉祥閣にて参籠し、雲水約200名と共に朝のおつとめや各家先祖代々のご供養にもご参加いただけます。莊厳な霧雨気の中で永平寺やご開山道元禅師の御心に触れていただければ幸いです。

是非、この機会にお誘い合わせてご参加下さいようご案内申し上げます。

尚、今回の檀信徒本山研修会からご参加の記念として皆様に曹洞宗島根県第二宗務所より特製の輪絡子(わらくす)を皆様にお渡しするよう計画をいたしております。



大本山永平寺

◎本年度本山参拝は永平寺様です。
全行程バスの旅です。

ご希望の方は三月十五日迄にお寺へお申込み下さい。
ご連絡をいたぐと申込書をお持ちします。

左記の通り、参加記念として宗務所から輪絡子が授与されます。
弘長寺の輪絡子をお持ちの方は、ご家族用としてご利用下さい。

■旅行期間: 平成24年 5月15日(火)~5月17日(木) 2泊3日

■募集人員: 150名様 (最少催行人員:70名様/定員になり次第締切りますので、お早めにお申込み下さい。)

■会費: 51,000円 (本山供養料、記念写真、観光費含みます)
(お一人様4~5名部屋1室利用)

■申込方法: 申込書にご記入の上、申込金5,000円(会費充当)を添えて、各菩提寺を通じ
(株)近畿日本ツーリスト中国四国 山陰支店までお申込みください。

■申込締切日: 3月15日までにお申込み下さい。

■食事条件: 朝食2回、昼食3回、夕食3回(弁当含む) ■添乗員が同行しあ世話を致します。

■主催: 曹洞宗島根県第二宗務所 (松江市寺町5-13番地 TEL(0852)31-7022)

曹洞宗島根県第二宗務所護持会

■協賛: 曹洞宗大本山永平寺・曹洞宗宗務庁

■行程表 記号の案内: バス ————— 船 ~~~~~

日次	月日曜	行程	食事	宿泊地
1	5/15 (火)	山陰自動車道: 米子・中國自動車道 各地 —— 蒜山SA —— 加西SA —— 吉川JC —— 小浜IC —— 6:30 7:30(休憩) 7:40 9:10(休憩) 9:30 —— ドライブイン若狭松風 —— 敦賀IC —— 南条SA —— 福井北 —— 大本山永平寺(泊) 11:30(昼食) 12:30 14:00(休憩) 14:15 15:30	× 昼 夕	[大本山永平寺] 吉祥閣
2	5/16 (水)	北陸・能越自動車道 本山 —— 高岡IC —— 9:00 高岡山瑞龍寺 10:40~11:40 11:50(昼食) 12:40 13:00~13:40 高岡山瑞龍寺 10:40~11:20 11:40(昼食) 12:30 12:40~13:40 老子製作所 柿の匠 高岡山瑞龍寺 14:20~15:00 16:30 工場見学 源ますのすミュージアム 新穂高温泉(泊)	朝 昼 夕	[新穂高温泉] 穂高荘山月
3	5/17 (木)	日本で唯一の2階建てゴンドラで 標高2,200メートルの雪の上へ 飛騨が誇るお漬物150種類 豪華両焼まつり屋台 ホテル —— 新穂高ロープウェイ —— 赤かぶの里 —— 高山まつりの森 —— 8:30 8:40 10:00 10:45(休憩) 11:10 11:30(昼食) 12:40 名神高速走路 中国自動車道 養老SA —— 加西SA —— 蒜山SA —— 各地 (休憩) 17:30(休憩) 17:45 19:15(休憩) 19:30 20:30頃	朝 昼 夕 井当	